

第3学年 体育科学習指導案

日 時：令和元年9月20日（金） 第2校時
 場 所：久木野小学校 体育館
 指導者：教諭 下村 昌夫

1 単元名 ○○に変身！ 「E 表現運動」

2 単元について

(1) 運動の特性

① 運動の一般的特性

中学年における表現運動は、題材の特徴をとらえてひと流れの動きにして即興的に踊ることを中心的な課題とし、現行小学校学習指導要領の第3・4学年領域Fの(1)では次のような内容が明記されている。

(1) 表現及びリズムダンスについて、身近な生活の中から題材を選んでその主な特徴をとらえて表現したり、軽快なリズムに乗って踊ったりして、みんなで踊るを楽しむことができるようにする。

体を単に動かすだけでなく、動きに差をつけて誇張したり、対応する動きや対比する動きを繰り返したり組み合わせたりして楽しむことができる運動である。

また、表したい感じや身近な生活の場面から考えられる動きを生かし、感じの異なる動きや急変する場面をつなげ「はじめとおわり」を付けて踊ることも可能であり、児童が取り組みやすいように動き方や構成などを工夫することにより、児童の実態にあった運動ができ、意欲的に楽しく取り組むことができる運動でもある。さらに、話し合う機会を多くして、動き方を選んだり、考えたりして、思考・判断を育むことが期待できる運動である。

② 児童から見た運動の特性

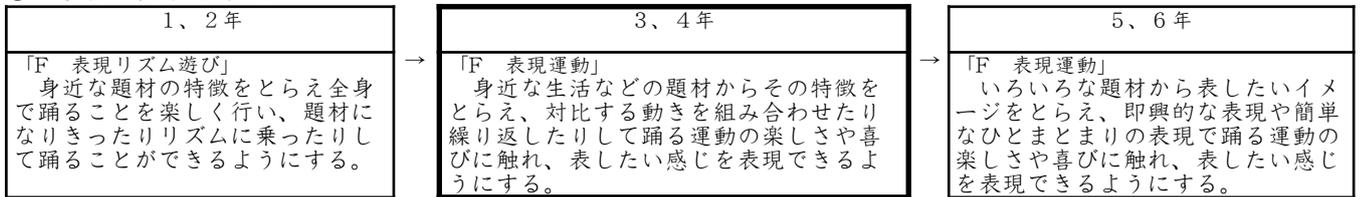
- 思い通りに、また、力を調整しながら体を動かすことで楽しさを味わうことができる。
- 友だちと教え合い、励まし合いながら、協力の大切さを知り、喜びを味わうことができる。
- 恥ずかしかったり、リズムに乗って思ったとおりに体を動かしたりすることができない。

等の理由から苦手意識を持ちやすい運動であるが、体を思い切り動かすことを楽しみ、友だちと一緒に動きをつくることを楽しむことができる運動である。

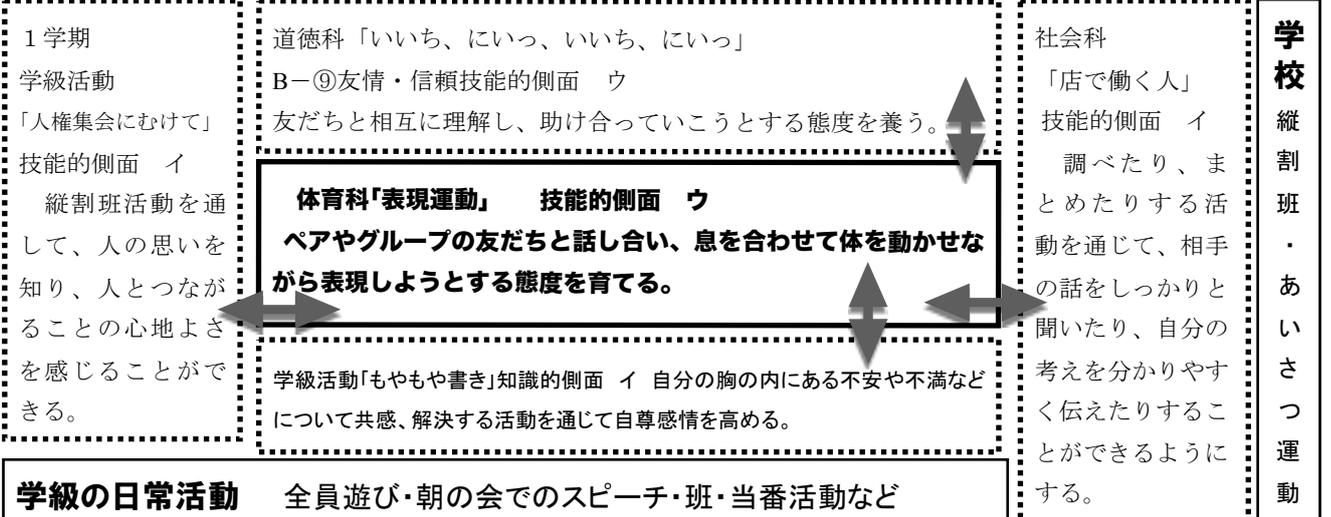
本単元の学習における「人権教育を通じて育てたい資質・能力」は、「相手の人権を尊重し、なかよく助け合って生活することができる。」（技能的側面ウ）である。友だちと話し合ったり、息を合わせて動いたりする活動を通じて、誰かとともに表現し、何かを形づけていくことの意味やよさに気づき、進んで日常の場において活かすことのできる児童に育ててほしい。

(2) 本単元の系統は次のとおりである。

① 教科に関する系統



② 他教科との関連 【人権を尊重し合う仲間づくり】



学校縦割班・あいさつ運動

(3) 児童の実態については、個人情報保護の観点から掲載を見合わせております。ご了承ください。

(4) 本単元の指導にあたっては、次の点に留意する。

- めあてを立てる段階では、個人とグループでのめあてをもたせ、【修行タイム（個人学びの場）】では、児童が、めあてを達成したことが十分わかるように、具体的な判断ができるような視点を設け、意欲的に取り組むことができるようにする。また、苦手なことに挑戦する児童や自信のない児童には、適宜個別に指導していく。また、【修行タイム】【変身タイム（班での集団学びの場）】でのがんばりが【みんなでなりきりタイム】に生かせるよう適宜指導助言を行う。
- 主に、個人でめあてを持ち、運動を楽しむ段階【修行タイム】では、児童全員の学習時間（運動量）を確保する。その際、ペアで簡単に相互評価し、次の運動に移ることを繰り返す。児童にとって待つ時間がないように1つの課題の場で、いくつかのレベルを適切に用意し、意欲的に学習できるようにすると共に、発展的な課題にも挑戦できるように工夫・支援する。
- 運動を楽しむためのマナーや安全についての約束事を提示し、視覚的に捉えさせ、徹底させる。また、準備・片付けの際は、役割を分担しておき、素早く、効率的にできるよう学習訓練しておく。
- 単元全体の見通しをもたせ、日常から非日常の世界に意識を変えられるようつかむ場を設定し、児童が、できる動きを増やしながらかバリエーションを広げるために工夫（強弱・対比・繰り返しなど）を考える時間を設ける。また、班で表したい感じやひと流れの動きの構成を今まで学んだ動きから生かす深める時間やみんなで見合い、相手意識を高めながら表現することの楽しさふれるようにまとめるという久木野学習にそった学習過程を通じて様々な手立てを講じていきたい。
 【自己存在感を持たせる支援】
 児童の身近な生活の中から特徴がとらえやすく多様な感じを含む題材（料理や掃除など）につながるような動きづくりを導入から行い、児童が動きたい感じを自由に表現できる授業づくりに努める。
 【共感的人間関係を育成する支援】
 ペアやグループで話し合う場や協力して表現する場を設定し、ひと流れの動きとして作品ができあがるように支援する。話し合いの際には、友だちの発言を尊重し最後まで聞くことや、互いの考えや内容のよさや共通点を見つけながら受容的に聞くことなど支持的な雰囲気づくりに努める。
 【自己選択・決定の場の設定】
 話し合いを行いながらも、児童が学びの中で培ってきた力や動きの中から選択し、工夫を施しながら一つの動きとしてまとめることができるような時間や環境づくりに努める。

3 研究のテーマとの関連

「よりよい関係を創造する生きる力を身に付けた児童の育成」 ～自他の人権を尊重し合う教育活動の積み重ねによる学習主体の育成～	
本校で育てたい資質・能力	目指す児童像
「相手の人権を尊重し、なかよく助け合って生活することができる。」 (技能的側面 ウ)	○相手にわかるように自分の考えを伝えることができる児童 ○自他のよさを見つけて集団の中で伝えることができる児童



「表現運動」の学習を通じて、

- I クラスや班のみんなで動きをつくり、息を合わせながら「できる」喜びを共に感じる機会にする。
- II 技能の習得や表現の強弱、繰り返し、質の向上などの様々な選択・工夫などの経験を通じて、「わかる」と実感できる学習にする。

という上記の2点を重点的な軸とした学習計画を立てる。「表現すること＝なりきること」であるが、真似（模倣）をする段階から、表現することに動きの質が転換する中で、児童一人一人が、身に付けた力や技能、工夫、友だちの動きの面白さやよさを見つけ、話し合いながら動きをつくり、それぞれの児童が活躍できるように支援しながら、全員が意欲的に学べるようにする。

目指す児童像については、ここの学習では、友だちと話し合ったり、息を弾ませながら運動したりしながらも、一緒に運動する友だちを大切に思い、考えを尊重しながら、ともに高めあえるきっかけとなる機会にほしい。これは、家庭や学校における日頃の生活と直結していく資質や能力である。どんなことであっても人と接することで、コミュニケーションを取る必要性や手間がかかるが、さらに良好なモノづくり、動きづくりや表現は、人間関係づくりあつてのものであり、社会生活を送る上での基礎だと考えるからである。独りよがりにならず、よりよいものを生み出そうとする力を教室の友だちと一緒に培ってほしい。

4 単元の目標

- (1) 身近な生活などの題材からその特徴をとらえ、対比する動きを組み合わせたり繰り返したりして踊ることができる。【技能】
- (2) 運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく練習や発表したり、場の安全に気をつけたりすることができる。【態度】
- (3) 自己の能力に適した課題を見付け、練習や発表の仕方を工夫することができる。【思考・判断】